

昇降機の国内納入事例

鈴木恭之*

Latest Supply Record of Mitsubishi Elevators and Escalators in Domestic Market

Yasuyuki Suzuki

要旨

最近，“東京スカイツリータウン”や“グランフロント大阪”など、各地域のランドマークとなる大規模物件が相次いで竣工(しゅんこう)した。近年における昇降機は縦の移動手段としてだけでなく、建築と一体となったコンセプトに基づき、高いレベルのデザイン性や機能性が要求されている。

東京・新宿に竣工した“新宿イーストサイドスクエア”では、かご室をガラスを基調とした開放的なイメージで統一した商業エリア用エレベーターとカラスステンレスと間接光の組合せによって落ち着いた雰囲気とした事務所用エレベーターを設置している。東京・押上に竣工した“東京

スカイツリータウン”では、イーストヤードのオフィス用40人乗りのシャトルエレベーターに曲線美を生かした自立式の乗場ボタンを設置している。大阪・梅田に竣工した“グランフロント大阪”では、南館オフィス用シャトルエレベーターの正面壁に調光ガラスを採用している。名古屋に竣工した“名古屋東京海上日動ビル”では、一階乗り場は白を基調としたホワイトフェースアクリルの幕板で建築のガラス光壁とすっきりと統一している。神奈川・みなとみらいに竣工した“MARK IS みなとみらい”では、エレベーターのかご室を暖かみのある色温度の照明と磁器タイルを敷き詰めた床でやさしい意匠を演出している。



新宿イーストサイドスクエア



東京スカイツリータウン



グランフロント大阪



名古屋東京海上日動ビル



MARK IS みなとみらい

最近竣工した代表的な昇降機納入事例

最近竣工した代表的な昇降機納入事例を示す。近年昇降機は縦の移動手段としてだけでなく、建築物のトレンドに合わせたデザイン性や安全性、セキュリティを中心とした機能性が求められている。

*ビル事業部

1. ま え が き

最近，“東京スカイツリータウン”や“グランフロント大阪”など、各地域のランドマークとなる大規模物件が相次いで竣工した。最近のエレベーターにおけるデザインの傾向は、建築のトレンドに調和した開放的なガラスを多用したものや、天然木や石などの天然素材を用いたもの、ステンレスパイプレーションを用いたシンプルなものが多い。

本稿では最近のモニュメンタルビルと三菱電機がそれらのビルに納入した昇降機設備の主な特長について述べる。

2. 新宿イーストサイドスクエア

新宿イーストサイドスクエアは、地下鉄東新宿駅に直結するエリア約3.7haを再開発したプロジェクトで、2012年9月にグランドオープンした。オフィスフロアの基準階面積は都内最大級の約5,900m²である。不規則な凹凸を施したガラスとプレキャストコンクリート板による外装は周辺への圧迫感や反射を軽減している。昇降機設備は、エレベーター42台、エスカレーター8台全てを当社が納入している。

2.1 デザイン

事務所用エレベーターは乗り場出入口、かご天井高さ、基準階のエレベーターホール天井高さを2,700mmに統一して乗降時に開放感を与えている。1階メインエントランスでは、乗場ボタンとホールランタンを大形の横形とし(図1)、視認性を向上させている。かご室はカラーステンレスの壁と間接光の天井の組合せで落ち着いた雰囲気演出している。

商業エリアの展望用エレベーターは床とドア以外のほとんどがガラスで構成されており、建物の開放的なイメージに統一されている。また半屋外に設置されている地上から地下鉄直結のエレベーター(図2)は、出入口が貫通二方向でかごの戸に大形の窓が設けられているため、地上への上昇時に地上からの光が降り注ぎ、天空へ昇るような感覚を味わうことができる。

2.2 エスカレーター

商業エリアに設置したエスカレーター(図3)は造形モルタルによる白い柔らかな曲面で構成されている天井と柱の傍を黒色で矩形(くけい)の外装を纏(まと)ったエスカレーターが直線に貫き、心地よいコントラストを演出している。

3. 東京スカイツリータウン

東京スカイツリータウンは2012年5月にグランドオープンした。東京スカイツリーを擁するタワーヤード、押上駅と直結するイーストヤード、そしてすみだ水族館のあるウエストヤードがある。昇降機設備は、イーストヤードのエレベーター21台、ウエストヤードのエレベーター12台を当社が納入している。

3.1 イーストヤード

イーストヤードには押上駅と直結する40人乗りのシャトルエレベーターが設置されている。乗り場には視認性の良い大形のホールランタンと、曲線の美しい自立式の乗場ボタンを設置している(図4)。

オフィス用として低層用/高層用エレベーターは将来のセキュリティ増設のため、IDカードリーダーの追加が可能になっている。高層用エレベーターには長周期地震動管制運転機能を備えている。

商業用エレベーターの乗り場は幕板全面に視認性の良い大形のアナログインジケータを設置している。かご室は出入口上板全面がアナログインジケータとなっている。常時全面が白色LEDで発光し、エレベーター位置をスカイツリーのテーマカラーである青色で示している。

3.2 ウエストヤード

水族館用エレベーター(図5)のかご室は他の展示物との調和を考慮したコーナー部の青色LEDによるスポット照明と巾木(はばき)の間接照明で暗く演出されている。

商業用エレベーターはイーストヤードと同様に乗り場には幕板全面に視認性の良い大形のアナログインジケータを設置している。かご室は出入口上板全面がアナログインジケータとなっている。常時全面が白色LEDで発光し、エレベーター位置をスカイツリーのテーマカラーである青色LEDで示している。

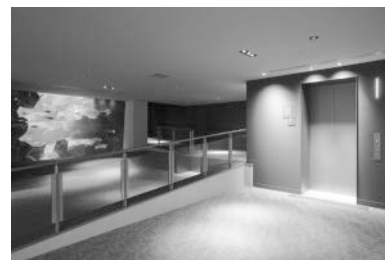


図5. 水族館用エレベーター



図1. 1階メインエントランス



図2. 地上から地下鉄直結のエレベーター



図3. エスカレーター



図4. シャトルエレベーター乗り場

4. グランフロント大阪

グランフロント大阪は旧梅田貨物駅24haの再開発のうち7haを先行的に開発するプロジェクトで、2013年4月にグランドオープンした。南館(タワーA)・北館(タワーB・タワーC)・及びオーナーズタワーの3つの建物と北館低層階ナレッジキャピタルから構成されている。南館から大阪ステーションシティノースゲートビルディング・大阪駅に隣接している。昇降機設備は、エレベーター76台、エスカレーター35台を当社が納入している。

4.1 南 館

オフィス用エレベーターはスカイロビー方式を採用し、9階をスカイロビーとしている。9階以上の利用者はそれぞれの利用階用のエレベーターに9階で乗り換える。1・2階から9階までのシャトルエレベーター(図6)は正面壁に調光ガラスを用いており、9階到着時に透明に変化させ、開放感を演出している。かご内の押しボタンは立体的な木製となっている。

ローカルエレベーターのかご室は白を基調にシンプルにまとめられており、袖壁に配置した大形の押しボタンが印象的なデザインとなっている。

エスカレーター(図7)は大阪駅に接続する“創造の道”と呼ばれる6層吹き抜け部に設置している。建築・エスカレーターともに照明光源の色温度を調整して暖かみを感じられるよう演出している。

4.2 北 館

低層部・タワーBのエレベーターのうち、低層部のエレベーターでは、9階乗り場に大形の横形ホールランタンを設置し、視認性を向上させている。基準階の三方枠は上枠がなく、建築の上枠が天井間接照明部との見切りを兼ねている。ホールランタンは建築のスパンドレル溝部に横長に配置されており、建築との調和が図られている。かご室はステンレスバイブレーションと天井ガラスクロス照明となっており、車いす用操作盤のボタン配列も一列でシンプルにまとめられている。

タワーCオフィス用のエレベーターのうち、一部の乗り場に木製押しボタンプレートを用いている。三方枠は低層部と同様に上枠レスとしている。かご室は壁・戸にステンレスバイブレーションを用い、壁中央パネルだけ鋼板塗装の磨き品を用いることで特徴のある意匠としている。

タワーCホテル用エレベーター(図8)は客室階を除く乗り場の戸をカラーステンレスのヘアライン・鏡面・バイブレーション・パールバイブレーションからなる複合仕上げとしている。

2・3階は乗り場の建築壁がガラスとなっており、乗場ボタンとホールランタンはガラスに組み込んでいる。かご室(図9)は不燃木の壁と間接照明を用いており、高級ホテ



図6. シャトルエレベーター



図7. エスカレーター

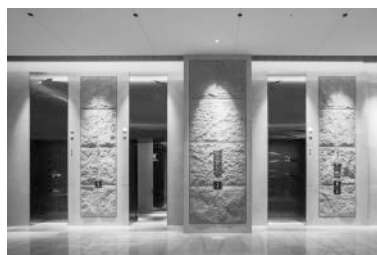


図8. ホテル用エレベーター乗り場



図9. ホテル用エレベーターかご室



図10. エレベーター乗り場

ルにふさわしい落ち着いた仕上がりとなっている。

4.3 オーナーズタワー

“ザ・ホテル”というコンセプトで都心居住レジデンスの頂点を目指したことから、パブリックエリアとしてのエレベーターもホテルと同様に高級で落ち着いた仕上がりとなっている。乗り場(図10)は石の建築壁にホールランタンを組み込んでいる。

かご室は木製枠付き化粧シートとカラーステンレス鏡面仕上げを組み合わせている。かご操作盤とIDカードリーダーを連動させ、マンションセキュリティシステムに接続している。

5. 名古屋東京海上日動ビル

名古屋東京海上日動ビルディングは旧名古屋東京海上日動ビル建替事業によって2013年7月に竣工した。1～3階が店舗・貸会議室ゾーン、4～14階がオフィスゾーンとなっている。昇降機設備は、エレベーター11台全てを当社が納入している。

5.1 店舗・貸会議室ゾーン

エントランスを入りすぐガラス製のシャフトが現れる。

この低層階用エレベーター(図11)は貫通二方口で、建



図11. 低層階用エレベーター

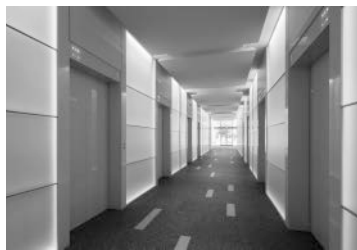


図12. 1階エレベーターホール



図13. 3階エレベーターホール



図14. オフィス用かご室



図15. 4階エレベーター乗り場



図16. ガラスシャフト



図17. 1階エレベーター乗り場



図18. エレベーターかご室

築側のサッシ部分と乗り場は共通してステンレスバイブレーションを使用しており、建築ときれいに調和している。かご室はカラスステンレスヘアラインを用いており、天井のガラスクロス照明によってシンプルな中にも落ち着いた雰囲気となっている。

5.2 オフィスゾーン

建築壁・乗り場・かご室は全て白を基調とした高級なイメージで統一されている。

乗場インジケータは全面ホワイトアクリルとなっている。1階エレベーターホール(図12)は建築壁がガラス光壁を用いて高級感を演出している。

2階は白色の鋼板塗装となっており天井・エレベーター乗り場等全て白で統一されている。3階(図13)は建築壁がブラウンとなっている。照明も床を効果的に照らしており、落ち着いた雰囲気となっている。

乗場ボタン／ホールランタンは全て三方枠に組み込まれている。

かご室(図14)は袖壁と出入口上板がステンレスバイブレーション、正面中央壁がフルハイトミラーとなっている。天井はガラスクロス照明で壁は鋼板塗装の磨き品となり、全体に白いイメージで統一されている。

6. MARK IS みなとみらい

MARK IS みなとみらいは、みなとみらい駅に直結し、子育て中のヤングアダルトファミリーからその親を含む三世代をターゲットとした商業施設として2013年6月にランドオープンした。店舗面積は43,000m²、地上6階地下4階に全189店舗が入っている。昇降機設備は、エレベーター15台を当社が納入している。図15に4階のエレベーター乗り場を示す。

6.1 貫通二方口エレベーター

商用施設として、ベビーカー利用者を意識した計画となっており、多くのエレベーターが貫通二方口となっている。クイーンズスクエア横浜側からの利用者と中央東口からの利用者のために、段差解消用としてエレベーターが用意されている。屋外に面しているため乗場ボタンは防滴仕様になっている。

特に中央東口に設置されているものはガラスシャフトとなっており(図16)、エレベーター駆動部分までガラスシャフトを通して見られるようになっている。

かごの戸は大形窓となっており、利用者の開放感を演出している。かごの戸・出入口上板・壁は鋼板塗装、天井照明はガラスクロス照明が用いられている。

6.2 建物内

建物内のエレベーターは乗り場・かご壁・かごの戸等が新しいテイストのフィルムで仕上げられている。このフィルムは1階の乗り場建築(図17)にも使われ調和が図られている。

乗場インジケータとホールランタンは出入口をはさんで別々に三方枠に組み込まれている。

エレベーターかご室(図18)の床は、建築側の床随所にポイントとして使われている磁器タイルを用いて仕上げられている。

天井照明はガラスクロス照明で色温度の低い温かみのある照明光源を使用し、利用者のくつろぎを演出している。

7. むすび

最近のモニュメンタルビルと当社がそれらのビルに納入した昇降機設備の主な特長について述べた。昇降機が建築の一部として重要な役割を担う中、時代・地域特性・利用者にとっての最適解をメーカーとして追求していきたい。